

1年 【数字の読み方の指導(1)】

数字は児童にとってたいへん身近で、生活の中でよく使われます。しかし、丸覚えでなく数の概念を身につけられるよう、具体物や百玉そろばんやブロックなどの半具体物、数図カードを使い、数字と対応させて読むことを取り入れた指導することが大切です。

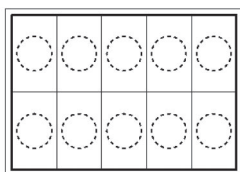
1. 数字の読み方を知る

- ①教科書の絵を見て、具体物を数える練習をする。



- ②かいてあるものの数だけ、百玉そろばんやブロックを動かす(ならべる)。

- ③かいてあるものの数だけ、数図カードに色をぬる。



- ④数詞「ろく」と数字「6」を知る。数字を見たり聞いたりして、百玉そろばんを動かしたり、数図カードに色をぬる。
- ⑤数字を見たり聞いたりして、その数だけ手をたたく。

ポイント 競争やグループ活動などゲームの要素を取り入れ、楽しみながら学ぶようにする。

2. 数字にはいろいろな読み方があることに気づく

- ①百玉そろばんやブロックを使い、1から10までの数を順唱する。(いち・に・さん・し・ご・ろく・しち・はち・く・じゅう)
- ②百玉そろばんやブロックを使い、1から10までの数を順唱する。(ひと(つ)・ふた(つ)・みっ(つ)・よっ(つ)…とお)読み方について気づいたことを話し合う。
- ③百玉そろばんやブロックを使い、1から10までの数を逆唱する。(じゅう・きゅう・はち・なな・ろく・ご・よん・さん・に・いち)読み方について気づいたことを話し合う。

ポイント 「し」と「よん」、「しち」と「なな」の扱いだが、教科書では「よん」「なな」を扱っていない。しかし、上に見たように一般に行われている数の表現であるので、特に数の読み方の指導として「し」「しち」でなければならない、ということはない。

ポイント 0から10までの数を順唱、逆唱することで0は「れい」と読むときと「ゼロ」と読むときの違いがあることに気づくことができる。

算数の場合、一般的に0は「れい」と読ませたい。

ポイント 「10ぽん」「10こ」等の読み方は「じっぽん」「じっこ」等が正しいが、現在では「じゅっぽん」「じゅっこ」等の読み方も一般に行われている。